

<b>1 総合評価の結果</b>			
建物名称	イオン大和ショッピングセンター		
BEE	1.6	BEEランク	A <span style="color: green;">★★★★★</span>

<b>2 重点項目への取組み度</b>				
重点項目	評価	劣る	ふつう	よい
地球温暖化への配慮	地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目	スコア 3.8	<span style="color: green;">★★★★★</span>	
ヒートアイランド現象の緩和	ヒートアイランド現象(都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象)を緩和する対策に関する項目	スコア 3.0	<span style="color: green;">★★★★</span>	

<b>3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア</b>			
<b>LR3/1 地球温暖化への配慮</b>		<b>レベル</b>	
		3.8	LCCO2(ライフサイクルCO2) 建設してから解体するまでの建築物の一生(これをライフサイクルと呼ぶ)で使った資材・エネルギーを、地球温暖化の影響を計るためにCO2排出の量に換算し、これら全てを足し合わせたもの
建設	LR2/2.1 材料使用量の削減	3	構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価
	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3	既存の建築躯体の継続利用有無および範囲による評価
	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	躯体材料へのリサイクル材利用を評価
運用	Q1/2.1.3 外皮性能	3	窓まわり、外壁、屋根や床(特にビロティ)における室内への熱の侵入に対しての配慮の程度および庇やブラインド等を設けることによる日射遮蔽の程度を評価
	LR1/1 建物の熱負荷抑制	4	室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密機能を評価
	LR1/2 自然エネルギー利用	3	自然エネルギーの直接利用(採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用(太陽光、太陽熱など)の導入有無、導入割合を評価
	LR1/3 設備システムの高効率化	3	空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価
修繕 更新 解体	LR1/4 効率的運用	4	エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価
	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	3	構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価
<b>ヒートアイランド現象の緩和</b>		<b>レベル</b>	
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上		3	熱的な悪影響を低減する対策(敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどの対策により暑熱環境を緩和する)を評価
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善		3	音熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合い
<b>関連項目</b>		<b>レベル</b>	
LR2/1.1 節水		4	節水への取組み度合いを評価
Q3/1 生物環境の保全と創出		3	生物環境の保全と創出に関する配慮(立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価

<b>主な指標および効果</b>			<b>自由記述</b> ・給水型保水性舗装の採用や、地表以外に壁面、屋上に緑地を設け、ヒートアイランド抑制に配慮する。 ・ソーラーパネルによる自然エネルギー利用を行う。 ・ナイトバージシステムを導入し、エネルギー負荷削減を行う。 ・防水材、インターロッキングに再生材料を使用し資源の再利用を行う。 ・ビロティにより日影スペースを設け、温熱効果削減を行う。 ・壁面・屋上緑化により、建物の断熱効果を高め、冷暖房負荷の低減を行う。 ・電気自動車用充電器設置により、電気自動車利用の促進を図る。 ・従業員用トイレ、避難階段に人感センサーを設置し、エネルギー消費量の削減を行う。 ・高効率空冷式ヒートポンプチャラーの採用。	
LCCO <sub>2</sub> の削減率		10 %		
PAL値/省エネ対策等級(1~4)	用途	300		/ 380(物販店)
	用途			
	用途			
	用途			
ERR(設備システムの高効率化)		7.7		%
自然エネルギーの利用				
太陽光利用(太陽光パネルなど)		54000		MJ/年
エネルギー削減率		7		%
太陽熱利用(太陽熱利用給湯システムなど)			MJ/年	
エネルギー削減率			%	
その他高効率機器等 (有の場合は内容を自由記述欄へ記載)			有	